

会員へのお知らせ

第78回学術講演会シンポジウム課題の決定ならびに担当希望者公募について

(開催地：札幌市 学術集会長：北海道大学 教授 渡利 英道)

さきに本誌会告により2026年に行われる第78回学術講演会シンポジウム希望課題を会員から公募し、その結果下記の3課題を採用することが決定しております。

つきましては、課題担当者を公募いたしますので、希望者は下記要領によりお申込み下さい。

シンポジウム1(腫瘍)

「婦人科がんの治療抵抗性克服を志向した基礎、臨床研究の新展開」

〔解説〕

本邦における婦人科がんの治療成績は概ね向上しつつあるが、治療抵抗性症例や再発症例については依然として予後不良であり、新規治療法の開発が求められている。

近年、婦人科がんに対する新規治療薬(PARP阻害薬、免疫チェックポイント阻害薬等)が臨床実装され、特に発生頻度の高い子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんの患者の長期予後の改善が期待されている。しかし、治療抵抗性症例や再発症例、標準治療のない難治性の希少がんに対する治療効果は依然として限定的である。治療抵抗性や感受性の分子基盤を解明するためには、腫瘍細胞自体のみならず、その周囲の血管、免疫細胞、線維芽細胞等から成る腫瘍微小環境の特性についての詳細な基礎研究が必要である。これに基づく臨床研究を進め、血液、尿検体を用いたリキッドバイオプシーの応用による新規のモニタリング手法の開発、新規治療標的の同定、それらの標的薬の臨床応用を通じて、さらなる個別化医療の推進を図り、予後の改善を目指すことが重要である。

本シンポジウムでは、婦人科がんの治療抵抗性を克服するための挑戦的な研究、特に、今後の臨床実装を目指した研究成果を募集する。

〔キーワード〕

治療抵抗性、分子標的薬、希少がん、ゲノム異常、ゲノム診断、腫瘍細胞、腫瘍微小環境、リキッドバイオプシー、バイオマーカー、個別化医療

シンポジウム2(周産期)

「妊娠中の子宮内環境：科学的理解と臨床応用」

〔解説〕

妊娠中の子宮内環境は、胎児の発育に大きな影響を与える。そのため、妊婦や胎児の健康にとって、妊娠中の子宮内環境を科学的に解明することは重要である。

器官形成期での胎児体性幹細胞が各臓器に分化する過程は子宮内環境に裏打ちされ、胎児付属物に由来するエクソソームなども注目されている。妊娠中期以降、羊水量の多寡などの子宮内環境の異常は幹細胞から分化した臓器の成熟を阻害する。さらに、子宮内感染は胎盤や臍帯の炎症所見で診断され、感染する過程では各種細菌叢や子宮頸管、羊膜、羊水が関与する。こうした子宮内環境の悪化に対して、出生前ステロイド療法などの薬物投与や、早産期前期破水に対する人工羊水注入をはじめとした胎児治療が行われ、病態解明と治療をつなげる努力が続けられている。

本シンポジウムでは、子宮内環境やそれに呼応した胎児発育を科学的に理解し、治療に結び付ける視点から、周産期医療の理解と発展につながる臨床および基礎研究を広く募集する。

〔キーワード〕

羊水、胎盤、臍帯、卵膜、幹細胞、分化、器官形成、エクソソーム、セルフフリーDNA/RNA、DNAメチル化、子宮内感染、早産、胎児発育不全、出生前ステロイド、胎児成熟、発達、胎児治療、人工羊水

シンポジウム3(生殖・女性ヘルスケア)

「AYA世代における子宮・卵巣の生殖機能と女性ヘルスケア」

〔解説〕

少子化は、社会構造の変化に因るとも、社会の成熟期に起こる必然ともされるが、我々はその原因にかかわらず妊娠を希望する人が妊娠できる医療を目指す必要がある。求められるのは、子宮・卵巣の機能への科学的アプローチや女性ヘルスケアを通じた介入や教育である。

我々は、子宮・卵巣機能の教育、疾患予防ならびに治療を通してAYA世代(Adolescent and Young Adult)と関わっていく。思春期にはプレコンセプションケアをはじめとした教育的アプローチを通じて、生殖機能に関わる。性成熟期になると、社会生活の制限を受けたライフスタイルの変化により、子宮・卵巣の機能が障害されることがある。妊孕性に影響を及ぼす疾患はこの時期に始まるため、適切な女性ヘルスケアの介入が必要である。平均初産年齢の上昇に伴い、生殖医療の重要性が増しており、子宮・卵巣の機能の改善を視野に入れた治療や研究が行われている。

本シンポジウムでは、AYA世代の子宮・卵巣の機能解析に資する、生殖医学と女性ヘルスケア分野の理解と発展につながる独創的な臨床・基礎研究を広く募集する。

〔キーワード〕

女性ヘルスケア、プレコンセプションケア、生殖・内分泌、子宮筋、子宮内膜、子宮内膜症、子宮筋腫、子宮腺筋症、多嚢胞性卵巣症候群、機能性月経困難症、卵巣、卵子、生殖医療、個別医療、卵巣組織凍結・移植、卵子凍結、早発卵巣不全

提出期限：2024年11月30日(土)必着

応募方法：申込用紙を本会学術委員会ホームページからダウンロードし、オンラインシステムより提出のこと。

添付書類：関連論文2編の別刷をオンラインシステムに添付すること。疫学データを使用する際には、倫理委員会の承認を得た疫学研究のプロトコールもしくはデザインペーパーも同時に添付すること。

応募上の注意

- 1) 日本産科婦人科学会会員であること。
- 2) 同一機関から同一課題についての応募は単数であること。
- 3) 同一会員が二課題以上には応募できません。
- 4) 応募者は単名であること。連名は受け付けません。
- 5) シンポジウムの表題、演者名、抄録内容*、倫理的配慮**、利益相反***など、応募内容については、すべて演者の責任で確認したうえで応募してください。

*応募内容(不採用を含む)、抄録ならびに発表内容に不正(データの捏造、改ざんや盗用)が発覚した場合、学術講演会発表に関する内規に従い処分されることがあります。

**「ヘルシンキ宣言」、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(文部科学省・厚生労働

省・経済産業省)」、「遺伝子治療等臨床研究に関する指針(厚生労働省)」、「ヒト受精卵を作成して行う研究に関する倫理指針(こども家庭庁・文部科学省・厚生労働省)」などの医学研究に関する指針、本会の倫理に関する見解を遵守して下さい。また、臨床研究においては患者個人情報保護に十分に配慮して下さい。抄録上明らかな重大な違反は不採用となります。シンポジウム演者採用後、発表時もしくは発表後に重大な違反が発覚した場合、学術講演会発表に関する内規に従い処分されることがあります。

***臨床研究(ヒトまたはヒトから得た検体に関する研究)に該当する場合、本会の利益相反に関する指針、同運用細則に従い利益相反を申告して下さい。同指針違反者は同指針・運用細則に従い措置を受けることがあります。

2024年7月

公益社団法人日本産科婦人科学会
第78回学術集会長 北海道大学 教授 渡利 英道
